

【解答例】

I

問一 個人が集合的な消費者や労働者の一要素と見なされ、人間としての個性をもたない統計データとして扱われるということ。

問二 ホテルの宿泊客はカードによって入退室や移動を管理され、同時に、スタッフによって監視され警告の掲示によって命令されている。これは、間接的に人間を管理する社会と規律で直接的に人間を動かす社会が二重に機能する現代社会の構造に通じるから。

問三 帝国は生産性を向上させるために人間の動物としての面に着目して統計技術によって管理をおこなっており、また国民国家に起源をもつ公衆衛生も実現しているのであって、人間を動物のように扱っているといった人道主義的見地からの批判は的外れだから。

問四 女性に「子どもを産め」と命じることは倫理に反しているが、一方で、女性が子どもを産みやすいように経済的・技術的に環境を整えることは倫理に反していない。こうした二つの道徳判断を私たちが認めているということは、現代社会が、人間を人間として扱う規律と、人間を統計学の対象とする管理という二つの判断基準を使い分けていることを示しているということ。

II

問一 広大な原爆実験の跡地にはいままも放射能の影響が残り、樹木も動物も存在しない。自分たちの足音しか聞こえない静寂の荒野を歩いていると、そこには死が充満しているように感じられ、生命が力強く息づいていることを感じたくなったから。

問二 かつて原子爆弾がいま自分が立っている場所で爆発してあらゆるものを焼き尽くしたという恐怖と、最初の被害者となった、言葉を発することのできない大地や生きものたちの痛みが、五十余年の月日を経て「私」に押し寄せてくるイメージを強める効果。

問三 八月九日は逃げることに必死で悲しみ嘆く余裕はなく、それ以降は被爆者の事実を心の奥に押し込めてきたが、原爆実験の跡地に立ち、最初の被害者になった大地の痛みを感じたことで、はじめて自分の体験と向きあうことができたから。

問四 いまだに放射能が残留していることに感動し驚いている自分や見学者の姿に、たかだか半世紀で原爆のもたらした悲惨な現実を過去の出来事にしてしまい、半永久的に続く放射能の威力を日常的な感覚でしか感じとれない人間の愚かさを感じたから。

Ⅳ

問一 車つくりが、車を作る心得を言葉で人に教えることはできないように、和歌においても、歌の詠み方のよしあしを心得ている人も、言葉でそれを人に伝えることはできないということ。

問二 管絃を上手に演奏することと微妙な音の差異を聞き分けることは別であるように、和歌を上手に詠むことはできても、歌の詠み方のよしあしを理解できている人は少ないということ。
問三 自分の感想としてはすばらしい和歌だと思ふことはあるかもしれないが、歌のよしあしを理解せず自分勝手にそう思うだけでは歌がわからないのと同じである。

問四 和歌は自分の伝えたい思いを表現するもので、万葉集や古今集の時代の歌人は自分の心にながう表現を作り出したのであって、現在の人がそれをそのまま使っても、自分の思いが表現できるわけではないから。

Ⅳ

問一 (a) Ⅱまきにゆかんとす。

(b) Ⅱお(を) さむるゆえ(忍)ん

問二 鳥や獣でさえ人間が自分たちの仲間を殺傷するのを憎悪する、まして君子ならばなおさらのことだ。

問三 天下に道義が踏みおこなわれていなければ仕官して活躍し、天下に道義が踏みおこなわれていなければ山野に隠れ住む。

問四 国家に道義が踏みおこなわれていない有様なのに富裕で高い地位を占めるのは、君子にとって恥ずべきことであるということ。

問五 道義にもとる行為をした趙簡子の治める晋国からの招聘に応じることは、君子の守るべき心得に反する行為であり、ましてその晋国で仕官して高い地位を占めることは恥ずべき行為であると孔子は考えたから。